

3. 調査結果(事例調査)

東京都障害者総合スポーツセンター

- 障害者専用のスポーツ施設
- 初心者からアスリート、軽度障害者から重度障害者まで、さまざまなニーズに合わせた支援プログラムを医師、理学療法士、栄養士と連携しながら提供
- 多くの団体と連携しながら、地域での障害者スポーツ普及を目指して、教室や体験会などを開催
- 本人、家族、地域住民との相互理解を図るため、交流行事を開催



1. プロフィール

名称	東京都障害者総合スポーツセンター
所在地	東京都北区十条台 1-2-2
開設年	1986 年
設置者	東京都
指定管理者	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

2. 施設概要

体育館	746.4 m ²
屋内プール	温水・25m/6 コース
グラウンド	200m/6 コース、直線 110mコース
その他の施設	スポーツ広場(640 m ²)、テニスコート(2 面)、アーチェリー場(50m)、卓球室、サウンドテーブルテニス室、トレーニング室 上記以外に宿泊施設(和室 3 室、洋室 3 室)

3. 施設の特長

◆多様な支援プログラムの提供

生涯スポーツ社会の実現のために、障害児を対象にしたプログラムや中途障害者への効果的なリハスポーツプログラム、重度障害者が継続してスポーツを楽しめるプログラムなど、医師、理学療法士、栄養士と連携しながら、多種多様なニーズに合わせてプログラムを提供している。



◆地域振興の推進

身近な地域でスポーツ・レクリエーション活動を行えるように、区市町村や社会福祉協議会などと協働して、スポーツ教室やスポーツ大会を開催している。さらに、学校、社会福祉施設、地域スポーツクラブ、企業などで障害者スポーツ体験教室や障害者スポーツ紹介イベントを実施して、地域での普及に励んでいる。

4. 運営状況

実施事業	<p>1) 健康スポーツ相談 医師や理学療法士、スポーツスタッフと相談のうえ、安全に実施できる個別支援プログラムを作成</p> <p>2) スポーツ教室 2011年度は、導入教室(196回、2,170人が参加)、入門教室(107回、1,343人が参加)、中・上級教室(65回、755人が参加)など、個人のレベルに応じたプログラムを提供。地域住民との交流を目的にした地域交流教室(バドミントン、卓球、テニスなど32回、1,629人が参加)や重度障害者対象教室(水泳教室を10回、166人が参加)なども実施</p> <p>3) 大会 初心者から上級者までレベルに応じて、グラウンド・ゴルフ大会やアーチェリー大会などを開催。2011年度は9大会に約2,000人が参加</p> <p>4) 地域交流事業 センター利用者や家族、地域住民との相互理解を図るために、納涼祭や障害者スポーツ体験会を開催</p> <p>5) 講習会 身近な地域での継続したスポーツ活動を支える人材育成のため、スポーツボランティア講習会、スポーツリーダー養成のためのフォローアップ講習会などを実施</p> <p>6) 地域振興事業 区市町村、社会福祉協議会、スポーツ振興財団、地域スポーツクラブ、福祉センター、特別支援学校、大学・専門学校、高校などと連携して、障害者スポーツ指導員やボランティアの育成を図っている。2011年度は、76回、約3,100人が参加</p>
体制	施設長1人、庶務担当24人、事業担当44人
運営費	約3億5,800万円(2011年度)
利用者数	延べ人数205,598人(2011年度)
利用料金	施設利用料は無料。宿泊料は障害者とその介護者(1人に限る)は1泊1,500円、それ以外は1泊2,000円

障害者スポーツ文化センター(横浜ラポール)

- スポーツを通し、障害者の QOL 向上とノーマライゼーション社会の実現を図る
- リハビリテーションの観点から、障害者の自立した活動を促し、社会参加機会の増加を創出する
- 医師や理学療法士等のリハビリテーション専門職と有機的に連携し、より重度な障害者がスポーツを楽しむ環境を整備する



1. プロフィール

名称	障害者スポーツ文化センター(横浜ラポール)
所在地	横浜市港北区鳥山町 1752
開設年	1992 年
設置者	横浜市
指定管理者	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団

2. 施設概要

体育館	メインアリーナ(1,500 m ²)、サブアリーナ(約 290 m ²)、ウォーキングコース
屋内プール	25m/6 コース
グラウンド	屋外グラウンド、地下グラウンド(1 周 160m/3 コース、内 1 コースには、視覚障害者ランニング誘導マシン・ガイドランナーが設置されている)
その他の施設	100m直線コース(3 コース)、テニスコート(1 面)、ボウリングルーム(4 レーン)、アーチェリー場、トレーニングルーム、サウンドテーブルテニス室、ローンボウリング場 文化施設:シアター、おもちゃ図書館、創作工房、多目的室



3. 施設の特長

◆ 経緯

設立当初から隣接するリハビリテーションセンターとの連携を想定し、施設の管理・運営もリハビリテーションセンターと同じ団体が行っている。

◆ コンセプト

リハビリテーションのゴールとなる、QOL の向上やノーマライゼーション社会の実現を目指し、より多くの障害者がスポーツを楽しむ環境を構築する。

◆ 方針

① 「地域支援」

横浜ラポールの利用率向上ではなく、障害者が地域で楽しめるスポーツの普及ノウハウを蓄積していくのが本来の目的である。市内の各区スポーツセンターなどに出向き、そこで実施可能なグラウンド・ゴルフ、卓球、ボッチャなどを実施することで、地域での障害者スポーツの定着を図る。活動を通じて、健常者の障害者理解につなげることも目的としている。

② 「自立支援」

障害者と健常者が交流するイベントなどでは、健常者が善意で、障害者本人ができることまで手伝ってしまい、障害者の多くが依存傾向に陥りやすい。リハビリテーション的観点から、障害者の自立を促すほうが良い場合には、障害者自身が楽しめて、モチベーションが維持できるように、努力して達成感を得られる目標を専門家の助言を踏まえて設定している。

③ 「重度支援」

スポーツ活動を行うことが困難な重度障害者こそ、横浜ラポールの支援が必要となる。現状、スポーツとのかかわりが難しい障害者を対象に、リハビリテーションセンターと連携し、医師やセラピストと協力して支援する。全ての障害者がスポーツを「する」ことができるわけではないので、スポーツに楽しく取り組む方法として、「みる」「つたえる」「つくる」概念を提案している。スタジアム観戦、テレビ観戦、写真撮影、チームのマネージャーになる等、多様な方法でスポーツと関わられるように支援している。

4. 運営状況

実施事業	1) スポーツ教室 396回(2011年度) 主な種目:リハビリテーション・スポーツ ¹⁾ 、水泳、卓球、オリジナルスポーツ ²⁾ 等 2) 地域支援プログラム ³⁾ 308回(2011年度) 主な種目:ボッチャ、卓球、グラウンド・ゴルフ等
体制	スポーツ文化施設のため、スポーツ事業課(課長3人、指導員22人。保健師、栄養士が非常勤で勤務)に加え、管理・文化事業課、聴覚障害支援課がある。
運営費	約8億5,300万円(2011年度)
利用者数	全体:434,873人 障害者:218,347人(文化施設利用者含む)
利用料金	障害者の利用料は無料。健常者は有料(大人350円、小人250円)
教室料金	個別指導500円 ⁴⁾ 、各種教室300円 ⁵⁾

- 1) 障害別に様々な種目を経験しながら、個々に自分に合った種目を選択していくための導入部分となる教室
- 2) 既存の種目ではなく、参加者の機能に応じて楽しく参加できる種目をラポールが独自に開発して導入しているプログラム
- 3) 巡回教室に留まらず、地域での人材育成研修や自主的なサークル活動の支援等を含む
- 4) マンツーマンで指導する場合の1回単価
- 5) 教室参加費の1回単価(5回の教室ならば300円×6回=1,800円)

北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」

- 民間フィットネス施設を障害者スポーツ施設にリニューアル
- 健常者向けプログラムをインストラクターが提供。利用者の満足度を確保しながら、収益性を高めるモデルを目指す
- 指定管理者の公募条件に障害者スポーツ指導者資格保有者を明記



1. プロフィール

名称	北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」
所在地	北九州市小倉北区三郎丸 3-4-1
開設年	2012 年(※移転前施設は 1976 年開設)
設置者	北九州市
指定管理者	社会福祉法人北九州市福祉事業団 (ミズノスポーツとの共同事業体)

2. 施設概要

体育館	1,000 m ²
屋内プール	温水・25m/5 コース、徒渉スペース有
その他の施設	卓球室、トレーニング室、多目的室、大スタジオ、小スタジオ

3. 施設の特長

◆移転の経緯

1976 年設立の勤労身体障害者体育施設(旧・北九州市障害者スポーツセンター)が老朽化しており、今後の維持補修を考える時期にあった。同じ時期に、コナミスポーツクラブが北九州市から賃借してフィットネスクラブを運営していた建物が、賃借期間満了により市に返却された。その建物に、障害者スポーツセンター機能が移転、バリアフリー対応に改装し、2012 年にリニューアルオープンした。旧施設よりも体育館、プールが拡張し、さらにプールは温水プールに変更した。

◆健常者との共同利用

コナミスポーツクラブがフィットネス施設を運営していた頃からの継続利用者がおり、現在でも利用者の約 6 割が健常者である。そのため、障害者向けのスポーツプログラムに加えて、健常者向けのスポーツプログラムも実施している。健常者向けのプログラムは、大スタジオやプールを活用したプログラムが多い。障害者スポーツ施設が、専門インストラクターを設けて健常者向けにプログラムを提供しているのは日本初である。障害者・健常者双方の利用者の満足度を確保しながら、収益性向上可能なモデルを目指している。

◆利用時間

障害者専用時間(木曜日 12:00~21:00、日曜日 9:00~12:00)を設定

4. 運営状況

<p>実施事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 巡回・出張事業(水泳教室、スポーツ教室／年間約 150 回) 2) 障害者スポーツ大会開催事業(ボッチャ大会、知的障害者バスケットボール大会、ふうせんバレーボール大会) 3) 交流促進事業(学校交流会、ふれあいバリアフリー、スポーツ交流デー) 4) スポーツボランティア育成・養成事業(障害者スポーツ指導員クラブ(SKET)の事務局として、ボランティアの育成を図る) 5) 生涯スポーツ支援事業(スポーツ教室等／年間約 340 回) 6) 余暇活動支援事業(放課後スポーツ教室／年間 16 回) 
<p>体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画・指導係 12 人全員、総務・管理係 8 人中 4 人が障害者スポーツ指導者資格を保有 ・ ミズノスポーツが一般向けのプログラムを担当(週 30 時間) ・ プール監視業務もミズノスポーツに委託 ・ 指定管理者の公募条件に職員の半数以上が障害者スポーツ指導者資格を保有、または取得予定であることが明記
<p>運営費</p>	<p>約 2 億 2,000 万円(2012 年度)旧施設は年間約 5,000 万円</p>
<p>利用者数</p>	<p>全体:77,446 人、障害者:25,154 人(2012 年度 4 月～10 月) <small>参考(2011 年度旧施設利用者数 全体:33,846 人、障害者:16,533 人)</small></p>
<p>利用料金</p>	<p>施設利用料:障害者無料、健常者(1 回 350 円～) スポーツプログラム受講料:障害者・健常者ともに有料(1 回 500 円)</p>